



川口市立在家中中学校 川口市大字安行領在家272番地
048(295)4102 FAX 048(295)5661
URL <http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/zaike-j/>



- ・心身ともにたくましい生徒
- ・自ら進んで学ぶ生徒
- ・豊かな情操を培う生徒

「学びに向かう姿勢」を変えていく

校長 鈴木 玲

5月の終わりに行った3学年の修学旅行に始まり、6月6日に1学年の校外学習、13日には2学年が、4年ぶりに泊を伴う水上自然教室を1泊2日でそれぞれ実施しました。どの取組も生徒たちは楽しそうに活動し、各学年が掲げた目標に近づくことができましたようです。学年の行事として全学年とも『成功』です。その中で各学年の弱点、努力点もいくつか見えてきました。今後の課題をはっきりさせることができましたという意味でも『成功』です。(タダでは褒めない偏屈な校長で申し訳ありません(;^_^A))

各学年に同行して、3つの学年に共通する課題、つまり現在の在家中中学校の課題として〔生徒の能動的な学び〕の不足を感じざるを得ませんでした。先述のとおり、どの学年の生徒も楽しそうに生き生きとした表情で活動していました。しかし、その活動のスケジュールやフィールドは教師が用意したものであり、その中で教えてもらうこと、指示してもらうことを待っている生徒が何人もいると感じたのです。もちろん、全ての生徒がというわけではなく、集団としての印象ですが、せっかくの機会にも関わらず〔受け身の姿勢〕で参加している場面があったように思えます。校外学習をはじめとする学校行事は、自律心や社会性、思いやりやチームワークなどを向上させる絶好の機会です。しかし、それだけでなく、生徒たちは参加するにあたって、歴史や地理、海や山の生物などについて事前に多くの調べ学習をして当日に臨みました。生徒たちが予め得ていた知識は校外のそれぞれの場で活かされ、深められていたでしょうか？ 事前学習は事前学習、当日の活動はまた別の話で…。などといった「つながり」のない学習になっていなかったでしょうか？

現在、神根地区の小中学校全9校（神根小・神根東小・根岸小・差間小・在家小・木曾呂小・北中・神根中・在家中）では【**学びの共同体**】という考えに基づき、授業改善、ひいては学校改革に取り組んでいます。これからの子どもたちには、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、時代に合った資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられるようになることが求められています。このことから、生徒たち同士による「学び合い」を柱とする【**学びの共同体**】による授業はうってつけです。少人数のグループで学び合うことによって生徒一人残らず学びへと促し、それぞれの学びが協同化する際にグループ内の仲間が発せられる「**ここどうするの？**」という問いが能動的な学びの一步目になります。この繰り返しにより「**自分から学びに向かう姿勢**」が身に付いていきます。

校外学習も普段の授業も、その学習活動を計画し、場を設け、課題を提示するのは教師です。しかし、教師が全てを教えてくれたり答えを言ってくれたりするのを待つのではなく、課題と時間を与えられたら、生徒一人一人が既に学習したことや過去の経験を駆使し、仲間と「対話」しながら課題の答えを導きだしていく。その時、出した答えが正解かどうかよりも「**自分から学びに向かう姿勢**」をもち、試行錯誤できるかが大切です。

校外学習、水上自然教室、修学旅行、それぞれに同行して確信したことがもう一つ。「今の在家中なら生徒と先生が少し目先を変えるだけで『**能動的に学ぶ姿勢**』を身に付けることができる！」ということ。これらの行事を機に、そして【**学びの共同体**】によって学習に向かう姿勢が変わると信じています。



校外学習、水上自然教室、修学旅行、教室……。全てが「**学びの場**」です。